

研修で  
学校が  
変わる

# 特別支援教育主任研修 (全)

## 幼保小中連携研修

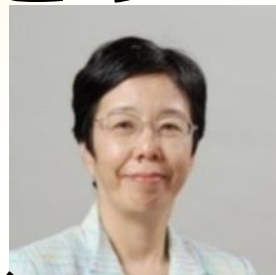
### まとめ

令和2年6月29日 (月)

## 「UDLでつなげる幼保小中連携」

Web会議による遠隔講義

講師 高橋 あつ子 氏 (早稲田大学 教授)



【研修のねらい】

- UDLについて学ぶことで、子供の育ちと学びのために日頃の保育活動に取り入れ、幼保小中連携に活かす。

### 1 今、求められる伸ばすべき資質・能力

- 学びに向かう力・人間性
- 粘り強い取組を行おうとする側面
- 自らの学習を調整しようとする側面

- 目的を持ちやる気がある
- 思いやりがある
- 色々な学習リソースを活かせる
- 対話ができる
- 方略を選び自らの学びを舵取りする
- 自己決定力
- 社会生活技能
- 自分が好き
- 行動調整力

### 受講者のプラン 私は学びをこう活かす

- 子供自身が自分で選んで考えて、遊びの中で様々なことを学んでいくことの大切さを改めて感じる。子供が遊びの中で、意欲を持って自己選択し、主体的な遊びが展開していけるような保育実践をしていきたい。【園】
- 子供が、自ら主体的に学べるような選べる環境作りを提供していくことで個々が生き生きと学び、また学び方で**自己決定の力**が育つことを聞き、個々の興味関心を高めていきたい。【学校】

### 2 主体的に学ぶためには

古い指導観とUDLとの決定的な違い

与えている！

大事なこと

託している！

- 発問
- こう考えよう
- 答えは？
- 正解です！
- まとめを板書
- 不足は宿題

- 教材と向き合い問いが生まれる
- 思考力を使って考えが見える
- 答え・自己評価、他者評価、自分なりのまとめ
- 自分に必要な宿題

- 学習問題
- どう考える？
- 答えはどう？
- 自分の言葉でまとめてみてどう使う？
- 必要だったらやる？

- 指導観の見直しを行った。「答え」を与えていた昭和型の保育で、守れない約束を繰り返し伝えていた。約束が守れない現状を変える方法は、繰り返し保育者が伝えることではなく、**子供が決めた提案を受け止め、実践できるようにサポートすることではないか**と考えた。【園】
- 子供達がこの一時間で何を学ぶのか目的意識を持ち自分に合った方法を選んで取り組めるような授業づくりをし、授業を変えていけるようにしたい。【学校】
- 多様性、相互承認の時代がすでに到来している。昭和型授業からの転換を図りたい。

### 3 学びのユニバーサルデザイン (UDL)

多様なオプションの提供 → 選択

- 選択の効果
  - 関心のあるものを学ぶ・自分に合っていると思える方法で学ぶ
  - 脳が心地よいと思えていることは、学習効果が高い
- 表現方法を多様に・・・限定しない
  - 口頭で 文字で 劇で 映像で 提示物で プレゼンで
- 学習方法が多様 評価力が試される
  - テスト、口頭試問 プレゼン 作品
- 肯定的な感情 → 学びの意欲に

### 今すぐ活かせるものが多い

- やり方は一つではない。着地点も一つではない。以前の固定概念に捉われるのではなくその子なりの能力が発揮できるよう環境を様々用意し、選ぶことが普通にできるといった保育、接し方を心がけていきたいと改めて気づかされた。【園】
- 児童の中に読み書きが苦手な子供がいる。教えていただいた支援方法を使っていきたい。**口頭テスト**は、時々だったことであり、良いと分かり、安心した。**劇や映像等の表現方法**も模索していきたい。【学校】
- 多様な方法を設定し、学習内容をチョイスできるようにし、学習意欲を高めたい。【学校】

### 4 幼保小中連携

○ **正しい目標設定を 実現可能な水準を**

- 例：卒業までに言葉で特定の人に気持ちを伝える
- いずれ社会で生きていく
  - どこでもだれでも困らない社会にしていこう
- いい実践は子どもを変え、教師を変える
- 多様なやり方があって当然な社会に

- 幼保の姿が、小中での学びにつながることを意識し、実際の子供の姿や保育士の関わりを通して、主体的な姿とは、どういう姿をいうのか考えていきたい。【園】
- 小学校との引継ぎにおいて個々に応じたよりよい関わり方や目標設定を共に考え合っていきたい。【園】
- 教育支援計画作成時には、目標は「いつまでに」「実現可能な水準」を明確にして作成することで、幼保小中連携を進めたい。【学校】